

2024年2月24日

NPO 法人チェルノブイリ救援・中部（日本）

## ロシアによるウクライナへの軍事侵攻反対の声明

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻開始から2年が経ちました。2年の長きに亘り軍事侵攻は続き、多くの市民が甚大かつ深刻な被害を受け続けています。私たちはあらためてロシアによるウクライナへの軍事侵攻に強く抗議し、ロシア軍のウクライナへの攻撃の即時停止およびウクライナからの速やかな撤退を求めます。また、一日も早く原発を安全な管理下に戻すことを求めます。

私たちは、1986年旧ソ連で起こったチェルノブイリ原発事故の被災者となったウクライナの人々を30年以上にわたって支援してきました。被災者の方々は、原発事故により、突然故郷を追われただけでなく、長きに亘って心身の病に侵されるなど、この上ない苦しみを受けてきました。今、その人々が、ロシアの軍事侵攻によって新たな命の危険にさらされ続けています。侵攻によって故郷を追われた人々、爆撃による破壊を受けた人々、家族と引き裂かれた人々、空襲警報の中で暮らす人々、受けられるはずの治療を受けられない人々、・・・、挙げ切ることのできない苦しみを受け続けていると思います。原発事故と軍事侵攻という二重の不条理を背負わされた人々が苦しんでいます。

不条理な苦しみを受けるのはいつも市民で、不条理な苦しみを生み出すのは為政者です。ウクライナだけでなくガザでも市民が命の危険にさらされながら苦しみ続けています。市民はその命の危険の中で、助け合って命をつなごうとしています。助け合いは、平和の灯です。為政者は、大義のために市民を犠牲にすることを即刻停止してください。いかなる理由があっても、市民の命と希望を奪い平和に向けた灯を消す武力行使は許されません。武力行使を即時停止してください。

為政者に求めます。対話と外交によって、核兵器使用と原発事故の危機を回避し、武力行使を停止させ、市民の命を第一とした復興への未来を拓いてください。武力や戦争ではなく、対話と外交による平和構築を強く求めます。このことは過去の2度にわたる世界大戦とその後の様々な国際紛争を経て人類が学んだ教訓であったはずで、1年後に、また同じ声明を出さなくてすむようになることを強く求めます。